

## 柔軟な発想で

## 飽くなき技術開発による発展を



株式会社アサヒテクノ  
(北上市)  
代表取締役

高橋 茂吉

私の経営の哲学は…

私には、経営者としての哲学などは有りません。ただ、以前勤務していた会社の盛岡営業所長時代に、上司に言われるままに、取締役仙台支店長に就任しました。

その会社の親会社は、日本でも大きな地質調査会社で、今でも健在ですが、当時、親会社から3名の取締役が来て、従来からの取締役との確執で会社がガタガタになり、結局、親会社から来た取締役が帰り、会社をたたむ事態に陥りました。そのため、何とか自分たちでやっ

ていこうと言うことで、当時の仙台支店長が社長になり、代わりに私が仙台支店長になり、東京支店長とともに取締役にになりました。しかし、代表印は親会社がコントロールして、3年目で破産となりました。私は、東京にいないこともあり、取締役と言っても何も自分で判断することは出来ませんでした。まわりの皆さんからは、大馬鹿三太郎と言われ

ていました。

通常は、会社を立ち上げて上手くいかなくなる破産手続きになりますが、私の場合は破産してから、今の会社を立ち上げました。地獄を見てからの会社設立ですので、経営に對しては非常に憶病です。

当時の破産管財人は国選弁護士の方で、「仙台の経営管理状態はすっかりしていた。弁護士の補佐役としてだけでなく、高橋君の今後のことも有るのだから」と言われ、迷惑をか

けた協力業者の皆さんに3か月かけて、お詫びと整理に一人ずつ歩き回りました。元同僚の社長の奥さんには、1時間も立ちながら涙され、返す言葉も有りませんでした。路頭に迷う社員、協力業者など、皆さんの思いは痛いほど解かるのですが、何もできない自分が情けなく、今でも当時のことは身体に染みついています。今こうやって商売で

ます。その弁護士先生には今も当社の顧問弁護士をお願いしております。

皆さんの情けを裏切らないこと、目の届く範囲で、自分で納得し、最後は自分で判断すること、それでもどうしても困り果てた時には自殺するのでは無く、しゃがみ込むこと、そうすれば誰かが手を差し伸べてくれると信じる。これくらいが、経営の哲学と言え

### 公共工事に於ける特許取得と自己実施

私どもが商売としている、地下水位を効果的・効率的に低下させるSWP工法や土壌浄化等を行うSKK工法、軟弱地盤改良や、地滑り・液状化対策を行うA&S工法、CVT工法などの特許工法を用いた工事は、殆どが公共工事と建築工事です。

ところが、公共工事では特許製品は嫌われる傾向にあります。理由は、皆に平等に分配

する理念が有るからです。

通常の特許料は工事価格の25%位になり、実施許諾により特許料が入りますが、公共工事では施工体制に多重下請け性があるため、末端では特許料を払わず施工してしまう傾向にあり、特許料及び技術の保持が出来ず、今日まで来ています。

そのため我が社では、SWP工法、SKK工法、A&S工法、CVT工法等、全ての国内工事は自己実施で施工しています。海外は、現地の会社に技術移転しながら、機材の販売と指導員の派遣で進めています。

なかでもSWP（スーパールウェルポイント）工法は、20数年前に現場の課題解決に向け技術的アイデアを結集し開発した我が社の技術開発の核となる工法です。普及を図るため、過去にご利用いただいたお客様とともにSWP協会を立ち上げ、削孔やその他の作業は全国の協会員に技術を伝授し、特許の部分は社員自らが言い、技術を守りながら施工しています。

お蔭さまでオンリーワンの会社として、技術の維持と保持、価格の維持が出来、価格競争に巻き込まれることなく会社を運営しています。因みに、特許申請は70弱ほど出しており、特許取得できたのは現在50ほどになります。その中で、ビジネスに結びついたのは、30%くらいかと思いますが、他は殆ど寝ていますので、今後は興味のある会社の実施許諾を考えていきたいと思えます。

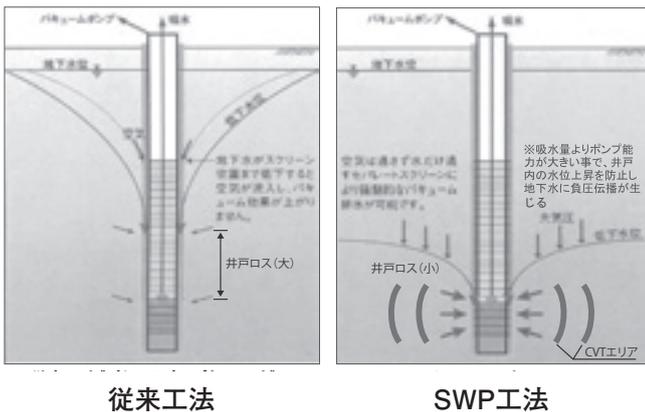
### 真空とキャビテーション現象（CVT）

SWP工法をはじめ我が社の工法の殆どが、真空をテーマとしています。

SWP工法では、海岸や河川の中でも地下水位低下が出来ることや、熱を加えなくても粘土から水蒸気として回収が出来、乾燥と強度増加が出来ていましたが、その謎解き（理論の確立）が出来ませんでした。

最近、その現象がCVT（キャビテーション・空洞現象）効果で起きているのでは？と考え、大学の先生をはじめとした専門家の方々とともにCVT研究会を2年前に立ち上げました。今までのニュートン力学や学問では説明がつかない新しい考え方で、数値解析でその現象を表現出来るように取り組んでいます。

### 従来工法とSWP工法との違い



結果として施工が出来ていますが、その理屈が解かり設計・施工法として表現できれば、発注者として設計折込が益々できることと、期待しております。

### 「愛・ちきゅう」を歌うアランドロン

実は、私にはもう一つの名前が有りまして、北上周辺が中心ですが、千昌夫、新沼謙治、北島グループ等の前座歌手をしています。発表曲はYouTubeで聞けますので、是非聞いてみてください。

これまでの発表曲のなかで「夏油高原風の声」「愛・ちきゅう」とくれば、次は宇宙ですが、今は宇宙は幾つも有るようで、宇宙を作りだしているのは真空と言うことのようにです。真空インフレーションエネルギーとも呼ばれています。

これからは、カーボンニュートラルがテーマでビジネス展開が拡がります。ですから、「愛・ちきゅう」ですが、我が社も今後は特許取得し開発した、ほとんど加熱せずに木材や食品等を早期に乾燥出来る「CVT乾燥装置」をもう一つの営業の目玉として、売り込みたいと思えます。

最後に、歌は「真空」を題名に現在作詞中です。皆さんに、興味がありましたら一声かけていただければ、幸いです。

